

学 界 消 息

1. 職域における創意工夫功労者として石硯, 河野, 野上の諸氏が表彰された

科学技術庁主催の「職域における創意工夫功労者の表彰」について、気象庁からは3名の方々が4月20日(水)日比谷公会堂で表彰された。その内容は、石硯浩氏(福岡管区, 35才)は、超短波中継機に付加する非常呼出装置の試作, 河野潔氏(札幌管区, 35才)は、通風乾湿計および風速計の電源装置の改良, 野上孝治氏(釧路地方気象台, 35才)は、電気抵抗法による土壤凍結の観測, である。

2. WMO 水理気象委員会の委員長に Kohler 博士
第3回総会で新設された水理気象委員会 (CHM) の委員長にアメリカ合衆国の Kohler 博士が選出された。

3. WMO 第12回執行委員会が開かれる

本年6月27日から7月15日までジュネーブで、WMOの第12回執行委員会が開かれ、和達清夫委員も出席される。主な議題は、各地区協会、専門委員会の決議、勧告の審議とその承認、条約修正、技術規則の検討その他。

4. WMO 海上気象委員会開催の予定

海上気象委員会第3回会議は、来る8月16日から2週間の予定で、ユトレヒトで開催される。気象庁からは寺田海洋気象部長が出席される予定。

5. AIF 放送, AIE 放送の中止

アメリカ合衆国空軍の AIF (府中), AIE (ガム島) 放送は5月25日で中止される。なお、気象庁に必要な資料は陸線で送信され、気象庁の JMG 放送に入れて、沖縄、朝鮮、台湾、フィリピン、ホンコンなどに送られる。

6. Guenter Loeser 記念講演者に H. E. Hinteregger 博士

GRD (The Geophysics Research Directorate) の1960年の Guenter Loeser Memorial Lecturer として、Hans. E. Hinteregger 博士がえらばれた。Hinteregger 氏はオーストリア、Waidhofen の生れで、ウイン工業大学 (Vienna Institute of Technology) 助教授として、研究・教育の経歴を持ち、1951年以来、GRD の物理学者として働き遠紫外線の研究にすぐれた成果をあげている。講演題目は、“Solar Extreme Ultraviolet Radiation as a Source of Interplanetary Ionization” (惑星空間でイオン化をおこさせる太陽からの遠紫外線) である。ちなみに Guenter Loeser は、1953年気象研究飛行に従事中、殉職した GRD のすぐれた科学者で、その霊をなぐさめるために、この記念講演が行われる。

7. 末広氏イランへ

気象研究所地震研究部第2研究室長 末広重二氏は、イラン国テヘラン大学の招請で、テヘラン大学地震学の助教授をかね、中近東の地震学の研究を行なうことになり、一年の予定で、4月24日出発された。

8. 塗師氏沖縄へ

気象庁総務課補佐管塗師誠一氏は琉球政府工務交通局長の招請で、4月25日から5月4日まで、琉球政府気象職員に「気象予報および高層気象業務指導」のため沖縄へ出張された。

理 事 会 だ よ り

第25回常任理事会議事録

日 時 昭和35年4月16日1000~1300
場 所 東京管区気象台会議室
出席者 畠山・正野・伊東・肥沼・岸保・吉武・今井・磯野・有任・根本・淵 各常任理事・藤田地方理事

(順序不同)

決 議

- 4月2日の常任理事会で決めた組織委員会と実行委員会のメンバーについて、多少の追加があるので4月26日開かれる準備委員会で最後案を決めることとなった。
- 昭和34年度決算報告および本年度予算案について

- は、吉武理事の原案に基づき検討の結果承認されることとなった。
3. 総会の提出議題は次のとおりとすることとなった。
- (1) 藤原賞設定に関する件
 - (2) 学会賞賞金増額に関する件
 - (3) 海洋上の高層観測網の整備に関する件
 - (4) サハラ沙漠原爆実験抗議に関する件
4. 各種奨励金および賞等の推せん規定案は、全国理学会にかけることとなった。
5. 日本学術会議からの南極シンポジウム・プログラムの照会に関し原案どおり了承することとなった。
6. ヘルシンキの総会で開かれるラジオ・アイソトープの分科会に関し、天気に関連して紹介することとなった。
7. 大会の「大気汚染と気象」シンポジウムに関し、座長および話題提供者を次のようにお願いすることとなった。
- | | |
|-------|-------------|
| 座長 | 滑川忠夫 (京大理) |
| 話題提供者 | 久保時夫 (横浜地気) |
| | 中野道雄 (大阪管区) |
| | 森口 実 (気研応用) |
| | 伊東暎自 (//) |
8. 総観気象の分科会を予報部談話会と共催で年4回開くこととなり、講演企画委員として石原健二氏を追加お願いすることとなった。
- 第10期常任理事会について
- 今期は4月16日開催の第25回常任理事会をもって終る。

国際数値予報シンポジウム便り

1. 参加申込状況

前号便りの34名の他、A. Eliassen (ノールウェイ) が追加された。

2. 講演日程 (暫定案)

講演は午前の部 9時半より 12時、午後の部 13時半より 16時半位の予定で次の日程で行われる。

11月7日 (月)	午前開会式、討論(1)	午後討論(2)
8日 (火)	討論(3)	// (3)
9日 (水)	// (3)	東京都内見学
10日 (木)	// (3,5)	討論(5)
11日 (金)	// (6)	// (4)
12,13日	鎌倉及び箱根旅行	

討論の主題は次の通り

- 討論(1) 各国大学、数値予報グループ及びセンターの総合報告。
- // (2) オートマティック・データ・プロセッシング (資料の自動処理及び客観観析) に関するもの。
- // (3) 短期予報に関するルーチン、改良及び基礎研究。
- // (4) 台風及びハリケーン予報とその数値実験
- // (5) 大気大循環と長期予報
- // (6) 中気象の力学。

数値予報国際シンポジウムのメンバーと小会合を開く件

シンポジウムが開催される機会に、これとは別に専門の小会合 (例えば大気乱流の会合) を開きたいという要望が出ております。つきまして希望の方はなるべく団体で、次の要領により申し出て下さい。

記

1. 記入事項

自分の側の名前 (なるべく団体名)
出席予定人数
主 題

大体の予算とその内容

- 2 宛先 東京都千代田区大手町気象庁観測部測器課内 竹内 清秀
(注意: なるべく早くご通知下さい。)

「天気」の原稿不足

論文、記事、討論、ご意見、なんでも結構ですから、お手許の原稿をお送り下さい。投稿規程は表紙2頁にあります。今ですと、直ぐに印刷になります。